

入院病日経過 月 日	入院～治療前日	治療当日	治療後1日目	退院日
目標	心筋症灼術について理解ができる	不安や痛みを表出し安静を守ることができる	合併症が起きず日常生活の知識を身につけ退院できる	
指導・説明	- 主治医より説明があります。(ご家族と一緒に) - 麻酔科医師の訪問があります。 - 病棟看護師、集中治療室の看護師より説明があります。 - 希望時、栄養士より食事指導が受けられます。   《準備するもの》 - T字帯 1枚、ストロー又はストロー付きコップ 特別な栄養管理の必要性 (有)・無	《治療前》 - 治療前1食は禁食、治療後1食はおにぎりになります。 - 禁食時の薬は少量の水で飲んで下さい。 - 医師の指示で糖尿病薬とインスリン注射、抗凝固薬が止まることがあります。 ・血圧、脈拍、体温を測定します。 ・点滴を開始し、尿管を入れます。 ・穿刺部(両足の付け根)を除毛し、前貼りをします。  ・動脈触知部位(足の甲)に印を付けます。 ・弾性ストッキングをはきます。  ・寝衣は全て脱ぎ長寝巻をかけていきます。 ・貴金属、入れ歯等、身につけているものをすべて外して下さい。 ・1階の血管造影室へベッドで行きます。	40歳以上の方は、別紙《総合機能評価表》を用いて総合的な機能評価を行う場合があります。	退院後の日常生活や再診日について看護師から説明があります。 
食事	- 塩分やカロリーが制限された食事になります。 - 経食道心エコー検査の為、昼食は禁止です。  		制限食が続きます。  	
点滴注射 内服薬	- 内服薬やインスリン注射、お薬手帳を持参し看護師に渡してください。 - 医師の指示で中止になる薬もあります。 - 点滴の針を入れ当日に備えます。		- 医師の指示で、内服薬の調節が行われることもあります。 - 薬剤師より内服薬の説明があります。  	
検査活動 処置	- 心電図の機械を付けます。 - 血圧・脈拍・体温・体重測定を行います。 - 入浴は可能です。 - 原則、病院内を自由に歩けます。 - 弾性ストッキングのサイズを合わせます。 - 点滴をして経食道心エコー検査を行います。   	留意点 - 治療中・治療後の安静中に胸部症状がありましたらすぐに知らせて下さい。 《治療後》 - 血圧、脈拍、体温を測定し、心電図検査を行います。 - 帰室後3時間は絶対安静、その後は朝までベット上安静です。出血を防ぐためにとても大切です。	朝、心電図と採血をとります。 - レントゲン撮影があります。 - 穿刺部は医師の診察後ベルトを除去します。 - 弾性ストッキングを除去します。 - 入浴はできないので、体を拭きます。 - 尿管を抜き、病棟内を自由に歩くことができます。	- 穿刺部の抜糸を行います。 - 穿刺部を覆ったまま、シャワー浴が可能になります。(入浴は治療後5日目より可能になります。) - 心電図の機械を取り、病院内を自由に歩くことができます。 
その他	- 眠れない時は申し出て下さい。 - 胸部症状がありましたら看護師に伝えて下さい。	- 穿刺部は出血を防ぐためベルトで圧迫されています。 - 医師の指示で抗凝固薬を再開します。 - 医師より治療結果の説明があります。(ご家族と一緒に) 	- 穿刺部の痛みや胸部症状がありましたら、看護師に伝えて下さい。 - 概算は退院前日にお知らせします。(※場合によっては概算できないことがあります。)	- 退院当日に外来棟1階⑤お支払(退院精算)で精算して下さい。(休診日の場合は入院棟1階、28番救急外来受付になります。) ※場合によっては後日清算となる場合があります。

(主治医) 印

(主治医署名)

※主治医の押印がある場合は不要

主治医以外の担当者 (看護師)

(薬剤師)

(栄養士)

年 月 日

病 棟	6階みなみ 入院 フロア
主 治 医	
退 院 日	月 日
退院後の治療計画	☐ 当院当科外来で通院治療を行います。 ☐ 他院 () で通院治療を続けます。 ☐ その他
退院後の療養上の留意点	・ 規則正しい通院 ・ 塩分制限 ☐ その他
保健医療サービス 又は 福祉サービス	・ 特にありません
そ の 他	